

## 追加関連論文

(プロパノール)

Hilscher H, Geissler E, Lohs K, Gibel W. Toxicity and mutagenicity of single fusel oil components on *E. coli*. *Acta. Biol. Med. Ger.* (1969) 23: 843-852 及びその仮訳

フーゼル油、アミルアルコール、イソブタノール及び n-プロパノールは、*E. coli* CA274 に対し不活性化作用を持ち、いずれの場合も濃度依存である。

フーゼル油、アミルアルコール、エタノールによる損傷は、明らかに除去修復によって修復され、供試大腸菌の DNA で起こると予測される。

フーゼル油、アミルアルコール、イソブタノール及び n-プロパノールでは、*E. coli* CA274 における復帰突然変異率の増加がみられ、それらは主に真の復帰突然変異であったが、サプレッサー突然変異も生じていた。フーゼル油の毒性と変異原性は、アミルアルコールの毒性と変異原性によって決定される。